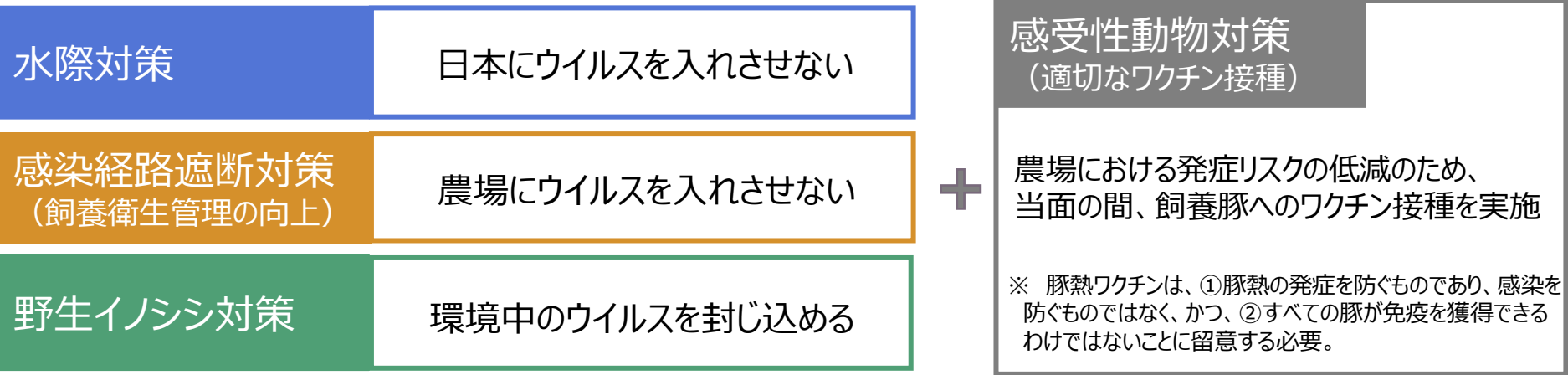


豚熱の発生状況について

今後の豚熱対策の道筋

- 豚熱対策については、農場にウイルスを入れさせないための**飼養衛生管理の向上を基本**とし、日本にウイルスを入れさせないための**水際対策**、環境中のウイルスを封じ込めるための**野生イノシシ対策**を複合的に講ずることが重要。
- 一方で、現状では野生イノシシの感染状況が把握できていない地域が多く、経口ワクチンの取組にも地域間で格差が発生。また、現状の飼養衛生管理では、農場へのウイルスの侵入を防ぐことができない場合、当面の間、飼養豚へのワクチン接種を実施。
- ドイツの取組状況を踏まえると、**我が国においても、10年単位での長期的な対策を講ずる必要**。

豚熱対策の3本柱

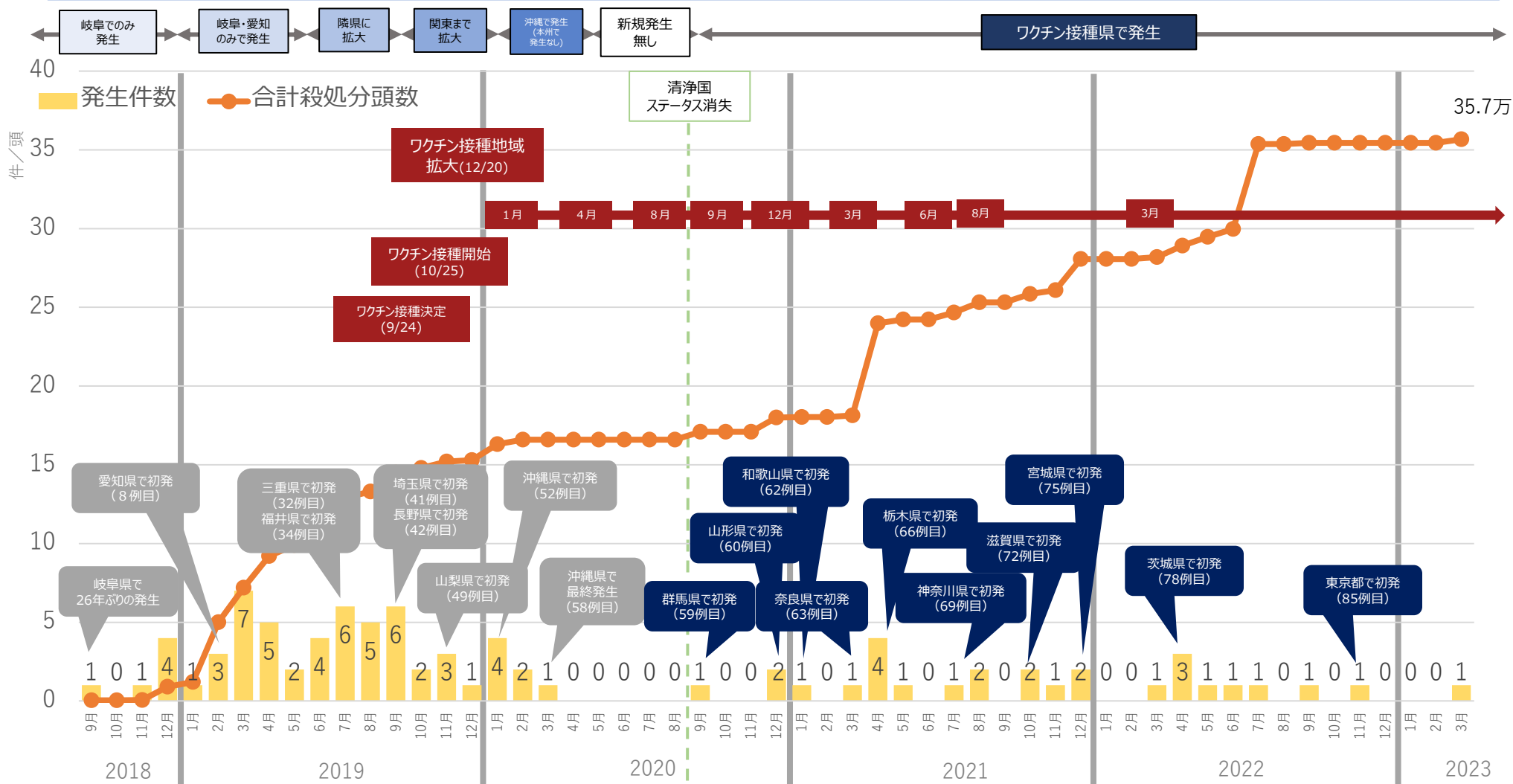


今後の取組方針

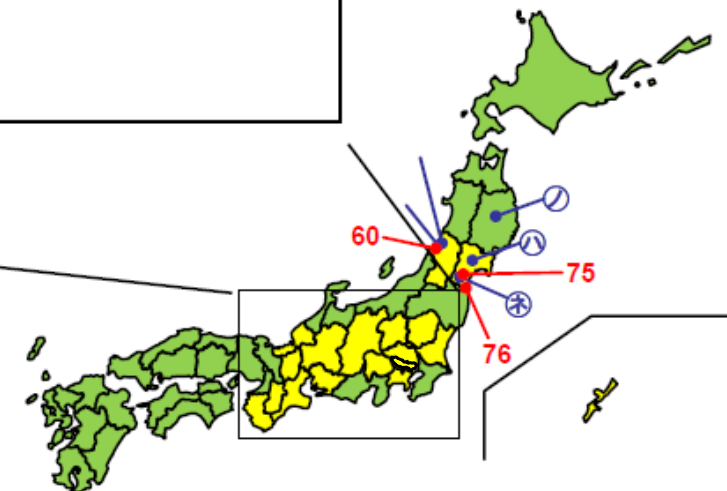
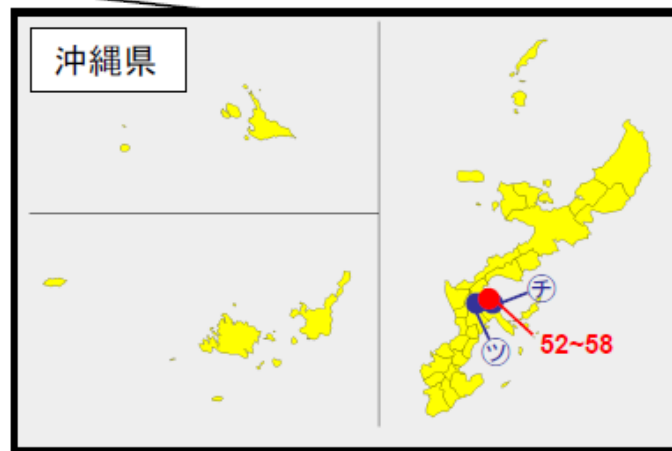
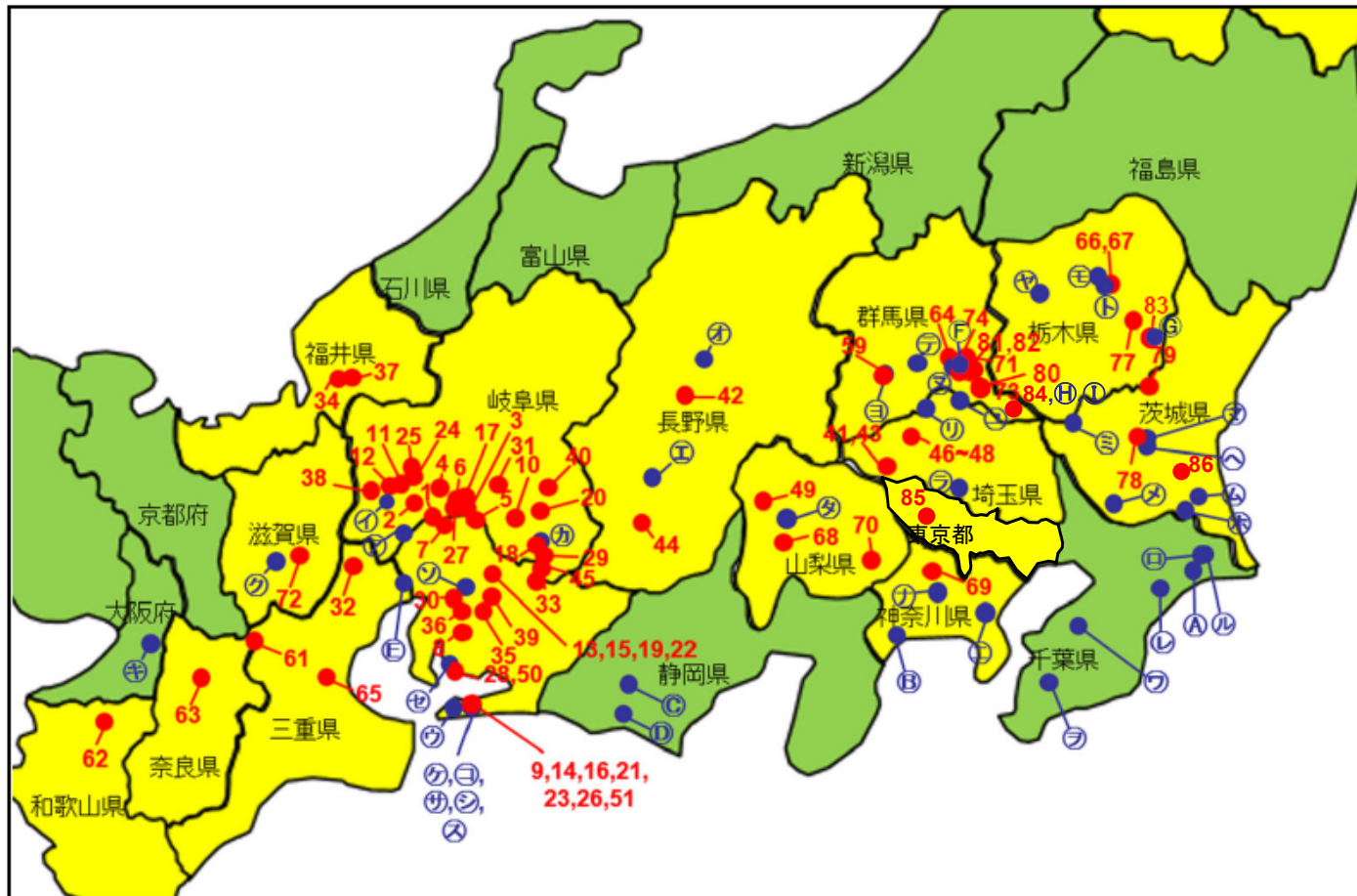
野生イノシシ対策については**10年単位で取り組む必要**
⇒ 豚熱の清浄化に向けて、各対策を長期間にわたって継続的に取り組んでいく
なお、データの蓄積や研究の成果を踏まえて、対策は随時見直していく

豚熱発生経過

- 2018年9月9日の岐阜県での発生以来、愛知県、三重県、福井県、埼玉県、長野県、山梨県、沖縄県、群馬県、山形県、和歌山県、奈良県、栃木県、神奈川県、滋賀県、宮城県、茨城県及び東京都の**18都県**で**計86事例**発生し、これまでに**約35.7万頭を殺処分**。
- **2019年9月24日にワクチン接種を決定**、10月15日に防疫指針を改訂、**10月25日からワクチン接種開始**。
- **2020年9月3日**にOIE（国際獣疫事務局）が認定する**豚熱の清浄国ステータスを消失**。
- 群馬県、山形県、三重県、和歌山県、奈良県、栃木県、山梨県、神奈川県、滋賀県、宮城県、茨城県といった**ワクチン接種県**においても発生。



豚熱の防疫措置対応(概要)



豚熱飼養豚発生県、野生イノシシ発生県、予防的ワクチン接種推奨地域

○ 予防的ワクチン接種の対象地域は、**防疫指針に基づき**、以下を考慮し、**牛豚等疾病小委員会**で議論した上で設定。

- ① **野生イノシシにおける豚熱感染状況**
- ② 農場周辺の**環境要因**（野生イノシシの生息状況、周辺農場数、豚等の飼育密度、山、河川の有無等の地理的状況）
- ③ 疫学的リスク低減のため、**まだら打ちを避ける**（面的に接種し順に拡大）

飼養豚陽性発生県： **赤色** （ただし、斜線  は、令和4年度以降発生なし。）

【18都県】（飼養頭数 2,662,550頭(全国の29.8%)）

野生イノシシ陽性発生県： **赤色**（沖縄を除く） **橙色**

【34都府県】（飼養頭数 4,028,930頭(全国の45.0%)）

飼養豚へのワクチン接種推奨地域： **赤色** **橙色** **黄色**

【39都府県】（飼養頭数 5,421,130頭(全国の60.6%)）

※飼養頭数は、R4 畜産統計・確報値を基に計算

